平等寺　朝夕勤行次第

毎朝六時
毎暮四時

先　壇前普禮

〔經頭〕金二打。〔諸衆〕本尊の御前に対して身を正して合掌し、左の腕に念珠を懸けて五体投地の禮を作すこと三度。普礼の真言に曰く、

oṃ sarvatathāgatapādavandanaṃ karomi.　オーム（聖語）、私はあらゆる御仏の御足に礼拝する。

次　着座

〔諸衆〕正座し、衣紋繕い。袈裟・念珠・衣などを整え、一度念珠を摺る。その後、護身法すること常の如し。

次　護身法等如常

次　前讃

〔讃頭〕朝・灑水発音。夕・金一打発音

四智梵語

鉢十五（朝は導師のみの場合、無鉢）

心略梵語

鉢三十（朝は導師のみの場合、無鉢）

不動讃

鉢二十四（朝は導師のみの場合、無鉢）

次（つぎ） 表白或いは願文（がんもん）

〔導師〕奉読

（朝勤行）

敬白　眞言教主大日如來金剛界會三十七尊九會曼荼羅諸尊聖衆。竝大悲胎藏八葉蓮臺十三大院塵刹聖衆。殊には本尊聖者醫王善逝日光月光十二神將諸大眷屬、總じては佛眼所照恆沙塵數一切三寶境界而言

夫以みれば藥師如來と者、

本行菩薩道の初めには發すに十二の上願を以てし、
東方瑠璃界の際には導くに千萬の下愚を以てす。
内外明徹の惠光は能く惑業煩惱の闇夜を破し、
像末饒益の威力は廣大慈悲の願望を改むること無し。
是の故に藥壺を開いて祕法を施せば病患を速疾に除き
松算を與えて懇念に隨えば壽域を長生に全うす。
加之、一經其耳の少緣、尚お衆病悉除の功有り。
三業相應の懇請蓋ぞ轉業增壽の益を施さざらんにゃ。

爰を以て護持法主、

今月今日壇上を靈地に儲け、六種の供具を設え、擧手低頭の禮敬を致して、藥師如來の祕法を心門に修す。

然れば則ち、

護持法主　悉地成就
院内安穩　諸人快樂

別しては、

新型感染症物故者追善供養・新型感染症罹患者早期平癒
新型感染症醫療従事者・葬送従事者等身心安穩報恩謝德
新型感染症被影響者身心安穩日常回復・新型感染症早期終息
災害犧牲者追悼・復興途上地早期復興成就
參詣者・巡禮者・リモート參拜者　心身安穩厄滅開運運氣龍昇一生大吉
護持施主　所願成就　乃至法界　平等利益

敬白

（神分）

（夕勤行・藥師如來名號讀誦會）

敬白　平等寺本尊藥師瑠璃光王如來名號讀誦功德回向之事

伏して惟れば三世諸佛出世の本懷は一切衆生成佛の指南なり。如來所説の八萬四千の法門は生死の苦海を渡す筏なりと。蓋し夫れ六大無碍の臺には迷悟同く優遊す。三密平等の床には生佛互に自樂す。之に迷者は長く三界の遊泥に沈み、之を悟る者は恆に五智の靈臺に遊ぶ。この故に諸佛、彼の六趣の塗炭を悲愍して拔苦の道を開き、菩薩は其の三途の沈淪を哀憐して與樂の法を示し玉ふ。ここに甚深廣大拔苦與樂の佛有り。所謂東方淨瑠璃世界教主、藥師瑠璃光王如來・醫王善逝是なり。始むるにおいて十二の大願を起こし、就中、第七願に曰く、「我來世に菩提を得し時、若し衆生あって、病に逼迫し、救いなく、賴りなく、醫療なく、藥なく、親なく、家なく、苦しみ多ければ、我の名號、一度其の耳を經れば、病悉く除き、身心安樂にして家屬資具、悉く皆豐足とし乃至無上の菩提を證得せしむ」と。ここに今日の法會は、高祖弘法大師のご誓願「一切衆生の身心を平等に癒やし去る」ため御作されし平等寺本尊藥師瑠璃光王如來御寶前に、新型感染症物故者追悼、罹患者平癒、醫療従事者身心安穩、事態の早期終息竝びに護持信心の施主らの諸願成就を祈らんがため、一座の法筵を開き、恆沙の名號・神呪を唱え、梵唄を奏し佛德を讃す者なり。音聲卽ち實相を顯す。生死豈に涅槃に非らざらんにゃ。仰ぎ願わくば藥師名號功力を以て恣に自他圓滿の眞果を證得せんことを。依って金盤を鳴らし過現名簿を唱えて回向すること左の如し。

一、奉爲三世覺滿十方賢聖淨佛國土成就衆生
一、奉爲弘法大師始奉三國傳燈諸大阿闍梨耶普賢行願皆令滿足
一、（ここでお申し込みのあった祈願を讀み上げる）
一、爲新型感染症物故者追悼
一、爲新型感染症罹患者當病平癒
一、爲新型感染症醫療從事者身心安穩報恩謝德
一、爲新型感染症被影響者身心安穩所願成就
一、爲新型感染症早期終息（等、時節に應じて追加）
一、爲三界六道有緣無緣諸精靈等乃至法界平等利益

右、唱へ擧る所如件

令和　年今月今日　　護持法主敬白

次讀經

〔経頭〕金二打。〔朝勤行〕『理趣経』。〔夕勤行〕例時『般若心経秘鍵』、六の日『観音経』、新月・満月『梵網経』、三と七の日『金剛界禮讃』、八の日『胎蔵界禮讃』。

『理趣經』「百字偈」

〔朝勤行〕『理趣経』の中で「百字偈」を読誦。〔夕勤行〕「百字偈」の後に日に応じたお経を読誦。

菩薩勝慧者　乃至盡生死
恆作衆生利　而不趣涅槃

金剛薩埵

菩薩の中にあって特に優れた智慧ある者は、いつまでもこの生死の世界にあって、常に衆生の利益を為し、声聞や縁覚のように無益な涅槃に向かおうとはしない。永遠にこの世界に留まり、衆生救済に奔走する金剛薩埵は、大智の故に生死に染まらず、大悲の故に涅槃に赴かない。これを無住處涅槃という。

般若及方便　智度悉加持
諸法及諸有　一切皆清淨

金剛欲明妃菩薩

金剛薩埵がどのように無住處涅槃を得たかといえば、般若の智慧（ものの本質は空であることを知る）と方便（適切な方法論）とをもって、あらゆる物事や生きとし生けるものをことごとく加持護念し、全てを皆清浄にしたからである。般若と方便によって全てを清浄にするという大いなる欲は、欲明妃の境地である。

欲等調世間　令得淨除故
有頂及惡趣　調伏盡諸有

金剛觸明妃菩薩

この大いなる欲によって世間の罪悪を清め除くゆえに、有頂天から地獄までの迷いの世界全てを、迷いの世界そのままで仏の世界とすることができる。この世界のまま仏の世界に触れることは、觸明妃の境地である。

如蓮體本染　不爲垢所染
諸欲性亦然　不染利群生

金剛愛明妃菩薩

この大いなる欲がもたらす分別（愛情）は私欲を離れた清浄なものであるゆえに、赤い蓮華の花が、その色によって汚されるのでは無く美しく輝くように、大いなる欲も分別（愛情）に汚されることなく、愛によってより良く生きとし生けるものに利益を与えることが出来る。この不染の愛こそ愛明妃の境地である。

大欲得清淨　大安樂冨饒
三界得自在　能作堅固利

金剛慢明妃菩薩

この清浄なる大いなる欲によって、大いなる安楽を感じるようになり、どのようなものも調伏できる大いなる財を得る。この世界のあらゆる場所あらゆる瞬間において、生きとし生けるものを誤りなく確実に利益する。この大いなる精進は、慢明妃の境地である。

次 後讃

〔経頭〕金一打。〔讃頭〕発音。願文ある時は一讃鉢三十。

四智漢語　鉢十五

心略漢語　鉢三十

佛讃　鉢二十四

次 三陀羅尼

夕勤行のみ誦ずる。〔経頭〕金一打の後、発音。

佛頂尊勝陀羅尼　一遍

一切如來心祕密全身舍利寶篋印陀羅尼　一遍

阿彌陀如來根本陀羅尼　一遍

次 至心廻向

『金剛界禮懺』「至心廻向」偈

懺悔隨喜勸請福　願我不失菩提心
諸佛菩薩妙衆中　常爲善友不厭捨
離於八難生無難　宿命住智莊嚴身
遠離愚迷具悲智　悉能滿足波羅蜜
冨樂豐饒生勝族　眷屬廣多恆熾盛
四無礙辯十自在　六通諸禪悉圓滿
如金剛幢及普賢　願讃回向亦如是
歸命頂禮大悲毘盧遮那佛

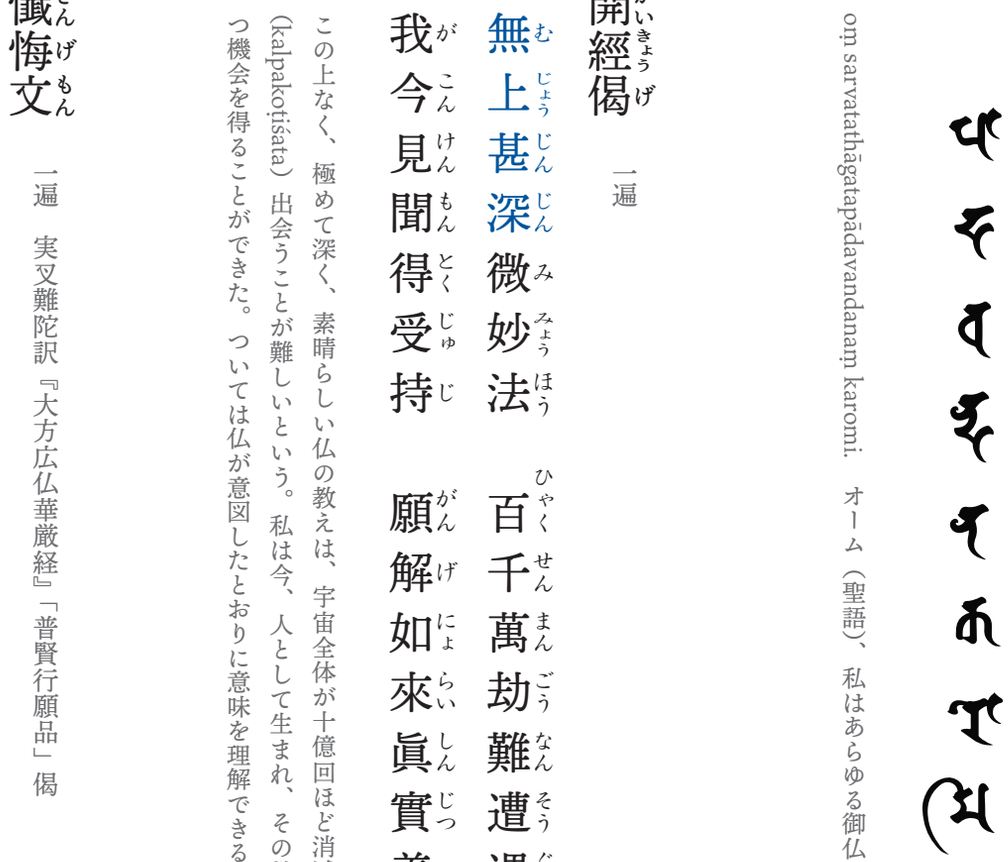
次 退堂

平等寺御寶號念誦次第

〔経頭〕金一打。勤行次第の頭を出す。

礼拝

〔経頭〕金二打。〔諸衆〕本尊の御前に対して身を正して合掌し、左の腕に念珠を懸けて五体投地の禮を作すこと三度。普礼の真言に曰く、



oṃ sarvatathāgatapādavandanaṃ karomi.　オーム（聖語）、私はあらゆる御仏の御足に礼拝する。

開經偈　一遍

無上甚深微妙法　百千萬劫難遭遇
我今見聞得受持　願解如來眞實義

この上なく、極めて深く、素晴らしい仏の教えは、宇宙全体が十億回ほど消滅と生成を繰り返しても（kalpakoṭiśata）出会うことが難しいという。私は今、人として生まれ、その教えを見て聞いて受けもつ機会を得ることができた。ついては仏が意図したとおりに意味を理解できることを願う。

懺悔文　一遍　実叉難陀訳『大方広仏華厳経』「普賢行願品」偈

我昔所造諸惡業　皆由無始貪瞋癡
從身語意之所生　一切我今皆懺悔

私が遙かな昔より作ってきた悪い行いは、全ていつからはじまったのかも分からない「貪り・怒り・愚かさ」が原因となって、「身体・言葉・意識」の中で生み出されてきた。私は今、その全てを懺悔する。

三歸依文（さんきえもん）　三遍

弟子某甲（でしむこう）　盡未來際（じんみらいさい）
歸依佛（きえぶつ）　歸依法（きえほう）　歸依僧（きえそう）

仏の弟子である私は、未来が終わる時まで、仏を信じ、仏の教えを信じ、仏の教えを実践する出家者の集まり（サンガ）を信じることを誓う。Skt. Buddhaṃ śaraṇaṃ gacchāmi, Dharmaṃ śaraṇaṃ gacchāmi, Saṃghaṃ śaraṇaṃ gacchāmi.

三竟（さんきょう）　三遍

弟子某甲（でしむこう）　盡未來際（じんみらいさい）
歸依佛竟（きえぶっきょう）　歸依法竟（きえほうきょう）　歸依僧竟（きえそうきょう）

仏の弟子である私は、未来が終わる時まで、仏を信じ、仏の教えを信じ、仏の教えを実践する出家者の集まり（サンガ）を信じている。

十善戒（じゅうぜんかい）　三遍　実叉難陀訳『大方広仏華厳経』「十地品」

弟子某甲（でしむこう）　盡未來際（じんみらいさい）
不殺生（ふせっしょう）　不偸盜（ふちゅうとう）　不邪淫（ふじゃいん）
不妄語（ふもうご）　不綺語（ふきご）　不惡口（ふあっく）　不兩舌（ふりょうぜつ）
不慳貪（ふけんどん）　不瞋恚（ふしんに）　不邪見（ふじゃけん）

仏の弟子である私は、未来が終わる時まで、故意に生きている者を傷つけず、与えられていない物を自分の物とせず、邪な男女関係を持たず、故意に嘘を言わず、余計なことも言わず、悪口も言わず、二枚舌も使わず、出し惜しみせず必要以上に欲しがらず、何があっても怒ること無く、因果応報の道理を信じない考えを持つことはないと誓う。

五大願（ごだいがん）

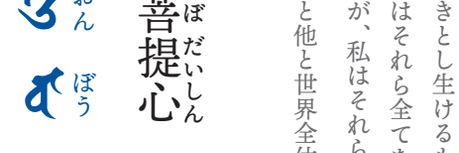
一遍　宥快和会『十八道念誦頸次第』

衆生無邊誓願度　福智無邊誓願集
法門無邊誓願覺　如來無邊誓願事
菩提無上誓願證　自他法界同利益

生きとし生けるものの数は限りないが、私はそれら全てを迷いから救うと誓う。福徳と智慧は限りないが、私はそれら全てを集めると誓う。仏の教えは限りないが、私はそれら全てを学ぶと誓う。如来の数は限りないが、私はそれら全てにつかえることを誓う。菩提はこの上ないが、私はそれを悟ると誓う。（これによって）自と他と世界全体とは、利益を同じくする。

發菩提心（ほつぼだいしん）

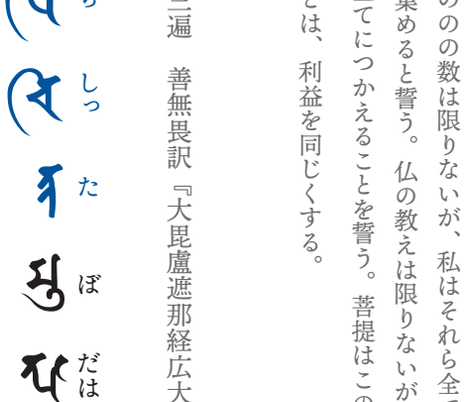
三遍　善無畏訳『大毘盧遮那経広大儀軌』



oṃ bodhicittam utpādayāmi.　オーム、私は菩提心を生起せしめる。

入佛三昧耶（にゅうぶつさんまや）

三遍　善無畏・一行訳『大毘盧遮那成佛神變加持經』「入漫荼羅具縁眞言品」



namaḥ samantabuddhānaṃ asame trisame samaye svāhā.　私はあらゆる仏たちに帰依する。等比するものが無い三平等であるところの三昧耶よ。スヴァーハー（聖語）。

三昧耶戒（さんまやかい）

三遍　金剛智訳『金剛頂瑜伽中略出念誦經』

oṃ samayas tvaṃ.　オーム、あなた（金剛薩埵）は三昧耶（あらゆるものの苦を抜き楽を与えるという誓いを体現する者）である。

般若心經

一遍　玄奘譯『般若波羅蜜多心經』

佛説摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中無色無受想行識無眼
耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至
無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死
亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
多是大神咒是大明咒是無上咒是無等等
咒能除一切苦眞實不虛故説般若波羅蜜
多咒即説咒曰

揭諦　揭諦　波羅揭諦　波羅僧揭諦
菩提薩婆訶
般若心經

大師御宝号及び真言

大師宝号　南無大師遍照金剛　　百遍或は千遍

弥勒慈尊　おん　まいたれいや　そわか　　二十一遍

藥師名號

経頭に従って読誦。各七遍。

藥師名號　南無藥師瑠璃光如來

藥師大咒　のうぼう　ばぎゃばてい　ばいせいじゃぐろ　ばいちょりや
はらばあらんじゃや　たたぎゃたや　あらかてい　さんみゃく
さんぼだや　たにゃた　おん　ばいせいぜい　ばいせいぜい
ばいせいじゃ　さんぼりぎゃてい　そわか

藥師心咒　おん　ころころ　せんだりまとうぎ　そわか

藥師小咒　おん　ばいせいぜい　ばいせいぜい　ばいせいぜい　ばいせいじゃ　さんぼりぎゃ
てい　そわか

諸眞言

経頭に従って読誦。各三遍。

日光菩薩　おん　ろぼにゅた　そわか

月光菩薩　おん　せんだらはらばや　そわか

十二神將　おん　くびら　そわか

本尊界會　南無本尊界會

兩部界會　南無兩部界會

金剛界五佛

金剛界大日

おん　ばざらだと　ばん

阿閦如來

おん　あきしゅびや　うん

寶生如來

おん　あらたんのう　さんばんば　たらく

觀自在王

おん　ろけいじんばら　あらんじゃ　きりく

不空成就

おん　あぼきゃ　しっでい　あく

胎藏五佛

胎藏大日

のうまく　さんまんだぼだなん　あびらうんけん

寶幢如來

のうまく　さんまんだぼだなん　らんらく　そわか

開敷華王

のうまく　さんまんだぼだなん　ばんばく　そわか

無量壽佛

のうまく　さんまんだぼだなん　さんさく　そわか

天鼓雷音

のうまく　さんまんだぼだなん　かんかく　そわか

胎藏四菩薩

普賢菩薩
（一切支分生）

のうまく　さんまんだぼだなん　あんあく　そわか

觀自在
（世尊陀羅尼）

のうまく　さんまんだぼだなん　ぼだだらんぢ　さもりち
ばらだのうきゃり　だらや さらばむ　ばきゃばち あきゃらばち
さんまえい　そわか

文殊菩薩
（法住）

のうまく　さんまんだぼだなん　あべいだびでい　そわか

彌勒菩薩
（迅疾持）

のうまく　さんまんだぼだなん　まかゆぎゃ　ゆぎに　ゆけい
じんばら　けんじゃりけい　そわか

般若菩薩

おん　ぢしり　しゅろた　びじゃえい　そわか

地藏菩薩

おん　かかか　びさんまえい　そわか

五大明王

一切佛心
のうまく　さんまんだぼだなん　あん　さらばぼだ　ぼうじ
さとば　きりだやにゃ べいしゃに　のうまく　さらば　びでい
そわか

一切菩薩
のうまく　さんまんだぼだなん　きゃ　さらばた　びまち
びきらんだ　たらまだと　にりじゃた　さんさん　か　そわか

持佛本尊
おん　まかきゃろにきゃ　そわか

十一面尊
おん　ろけいじんばら　きりく

不動明王
のうまく　さんまんだ　ばざらだん　せんだ　まかろしゃだ
そわたや　うんたらた　かんまん

降三世王
おん　そんばにそんば　うん　ばざら　うんぱった

軍荼利王
おん　あみりてい　うんぱった

大威徳王
おん　しゅちり　きゃらろは　うん　けん　そわか

金剛夜叉
おん　ばざらやきしゃ　うん

愛染明王
おん　まからぎゃ　ばぞろしゅにしゃ　ばざら　さとば　じゃく
うん　ばん　こく

毘沙門天
おん　べいしらまんだや　そわか

大金剛輪
のうまく　しっちりやぢびきゃなん　たたぎゃたなん　あん
びらじ　びらじ　まきしゃきゃら　ばじり　さた　さた　さら
てい　さらてい　たらい　たらい　びだまに　さんばんじゃに
たらまち　しった　ぎりや　たらん　そわか

一字金輪
のうまく　さんまんだぼだなん　ぼろん

佛眼佛母　のうぼう　ばぎゃばとうしゅにしゃ　おん　ろ　ろ　そぼろ
じんばら　ちしゅた　しっだ　ろしゃにさらばらた　さだにえい
そわか

釋迦牟尼　南無釋迦牟尼善逝
八大髙祖　南無八大髙祖
賓頭盧尊　南無賓頭盧尊者
諸阿羅漢　南無諸大阿羅漢
金剛力士　南無金剛力士
光明眞言　おん　あぼきゃ　べいろしゃのう　まかぼだら　まに　はんどま
じんばら　はらばりたや　うん

平等寺鎭守

大師寶號　南無大師遍照金剛
鎭守寶號　南無當山鎭守
牛頭天王　南無祇薗牛頭天王
自在天神　南無天滿大自在天神
稻荷明神　南無冠稻荷大明神
轟大明神　南無轟大明神
愛宕權現　南無愛宕大權現
善女龍王　南無清瀧大權現
金毘羅神　南無金毘羅大權現

護法善神　南無萬山護法善神

世出世神　おん　ろきゃろきゃ　きゃらや　そわか

先師尊靈　南無當山代々先師尊靈

各家尊靈　南無當山檀越先祖代々尊靈

過去精靈　南無過去精靈

三界萬靈　南無三界萬靈

廻向文

『法華経』「化城喩品」偈

願以此功德　普及於一切

我等與衆生　皆共成佛道

願わくば此の功德を以て普く一切に及ぼし我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん

護身法等如常

三歸禮

実叉難陀訳『大方広仏華厳経』「浄行品」。〔経頭〕金一打し発音。〔諸衆〕一同、三帰禮文を唱和しながら五体投地すること三度。

自歸依佛　當願衆生　體解大道　發無上意

自歸依法　當願衆生　深入經藏　智慧如海

自歸依僧　當願衆生　統理大衆　一切無礙

退堂